



武蔵國全圖



日本後紀仁明天皇壬辰十一年四月の條に武蔵國
 管内曠遠行路多難公私行旅艱難者數仍於
 多摩入間兩郡及里尾田所建屋五宇今彼五
 柱下當宗富野家主也少目筑七位上左大臣
 上大臣八谷公麻呂以備 潮口の責を以て之を
 かも人理絶つる邪所あるを以て 然らば今
 此等の思慮を以て之を 豊前山家とらへる今
 の備わりの用を故を因り 武蔵の若くは 御てへ
 の事ありや
 ○當國八姓古東山道に傳り然り八里四十
 凡八九に天皇の寶地三千更に東海道を傳り
 七次の大政官奏武蔵國雖山道多難水海邊
 公使難多供進塔其東山縣路設上野國新
 田驛並下野國足利驛此使道也而往彼上野國
 出野驛並五箇驛到武蔵國事畢五日入取回
 道向上下野國今東海道者彼相模國夫未嘗達
 下總國其間四驛性遠伏近而去此使道相吉極多
 臣等商量設東山道爲東海道公私行旅人馬
 有益矣可く之を改め東海道と爲す
 今之改め也

大武蔵とつら圖
 約名理を故武蔵
 武刺のりしと鋼の
 十の武蔵の字を改
 ○當國の總名は東
 武喜氏部式あり
 以上を上郡と四百戸
 べの武喜氏部式あり
 同言のりし武
 男余 播磨
 北四郡は何れを
 九女千人を武
 但群の得たり今
 昔を以て之を
 按て古八國
 ○當國の田數は
 今三百萬石に
 今二百八十四
 里あり但東海諸

富國の昔古道の病野の事
 日本後記仁明天皇天長十年四月の條に武藏の國管内城鎮行路多難公私行旅飢病者屢仍於多摩入關而郡界置田所走屋五千分彼五姓下當官者其家主事目難七位上並兼主邑上六箇人各割公廩以備糊口之資云々といふは久人理絶と邦原ありともべ一然と今太平の思慮多故てのち邊鄙山家とてつゝをの備りく用を法を因り飢病者をかえりて之事しらばなり
 ○富國ハ性古東山道ヲ稱せり然も大正十四九年九月天官の實記ニ手更之東海道ニ能くも公使繁多供給難堪共東山驛跡上野國新田驛迹下野國足利驛此使使也而社從上野國邑驛跡五箇驛到武藏國事云五百又取同道向下野國今東山道者從相模國大末登達下野國共四驛往來近而去年此後頗多起多臣等商量改東山道爲東海道云々特所人馬有負矣可くことと時より東海道ニ稱す事しらばなり



○富國の昔古道の病野の事
 中一とて八つとて中五つとて二と云々
 ○小山田の堀
 ○前の池
 ○小舟の池
 ○旗本の井
 ○送水
 ○真土山
 ○角田川
 ○五川
 ○崎の津
 ○入向の里
 ○都丸原
 ○武蔵野

此國の名多し神地佛地入具今昔の年歴の新を除く住む所の名多し
 中一とて八つとて中五つとて二と云々
 〇小山田の堀
 〇前の池
 〇小舟の池
 〇旗本の井
 〇送水
 〇真土山
 〇角田川
 〇五川
 〇崎の津
 〇入向の里
 〇都丸原
 〇武蔵野

○按古六
 富國の田數
 今三百餘石
 昔二百八十
 石云々

